平成２６年度第１回宗像市幼児教育審議会

議事録（要点筆記）

期　日：　平成２６年１２月８日(月)
時　間：　１９：００～２１：００
会　場：　宗像市役所２０４会議室

審議会委員					
田中　敏明	○	河本　博子	○	納富　恵子	○
吉田　洋之	○	元岡　充代	○	内田　龍男	×
髙杉　洋史	○	幸　政恵	○	判田　五月	○
檜山　理恵	○	桶川　優子	○	髙松　美香	○

事務局			
柴田　祐治	中野　万由美	久保　謙司	早川　靖彦
田中　典子			

【配布資料】
・宗像市幼児教育審議会規則
・宗像市幼児教育審議会委員名簿
・宗像市幼児教育振興プログラム
・宗像市幼児教育振興プログラムダイジェスト版
・平成２６年度幼児教育事業一覧
・宗像市幼児教育振興プログラム進捗状況
・家庭向けリーフレット（スムーズな小学校入学に向けて）
・保幼小連携だより
・平成２６年度保育所・幼稚園子育て支援地域開放事業パンフレット
・子育て支援センターふらこっこパンフレット
・子育てサロン紹介一覧
・ママパパ応援ＢＯＯＫ
・むなかたタウンプレス 平成２６年１１月１５日号（７ページ）

１　挨拶（省略）
２　委嘱状交付
任期は平成２６年５月３１日から平成２８年５月３０日までとする。
３　委員自己紹介（省略）
４　会長・副会長選任
事務局から「宗像市幼児教育審議会規則第４条」に基づき、委員の互選により定める旨を説明。⇒会長に田中委員、副会長に髙杉委員を選任。

５　議事

（１）議事録の作成方法

事務局から「宗像市市民参画、協働及びコミュニティ活動の推進に関する条例施行規則第６条」に基づき、第１回目の会議に諮って、①発言の全てを記録する全文筆記、②発言者の発言ごとの要点筆記、③会議内容の要点筆記のいずれかで行う旨を説明、③案で提案。

⇒③の方法に決定。

（２）幼児教育振興プログラムについて

・プログラムの概要説明

・平成２６年度事業の進捗状況等

（事務局から説明）

≪意見・質疑≫

◇家庭向けリーフレット（スムーズな小学校入学に向けて）は、夏休み前に配布とあるが、配布時期については、各園の保護者面談や学級懇談の状況に応じて配慮願いたい。

⇒効果的なタイミングで保護者に配布してほしい。各園の状況に合わせて対応したい。

◇福岡教育大学の学生ボランティアを受け入れた感想として、参加人数も増えており、学生の意識も高いと感じている。とても良い感じで子ども達とかかわってくれて感心した。

◇２６年度の事業計画の中で達成できそうにないものはあるか。

⇒順調に進んでおり、今のところ達成できそうにないものはない。

今年８月から保育士、幼稚園教諭、小学校教諭によるワーキング会議を行い、教員向けの「（仮称）保幼小接続期における学びのめやす」の作成に取り組んでいる。来年度からの使用に向けて準備を進めている。

◇プログラムの「育てたい幼児像」の中に、「夢中になって遊びこむことによって生きる力を身に付けていく。」といった内容が記されている。保幼小連携は、何でも早めにやろうということなのか。保幼小連携だよりの記事によると、園で読み書き・計算をやっているようだが、それで遊びこめているのか。

⇒保育参観は輪番制で実施しており、それぞれの園で特色のある保育や教育が行われている。保育参観では普段の保育内容を見せていただくことになっており、その時間帯がたまたま読み書き・計算の時間だったということ。

また、家庭向けリーフレットに鉛筆の持ち方を載せているが、文字を教えましょうということではない。間違って覚えてしまうと直りにくいので、もし持つなら正しい持ち方がわかった方が良いという考えで載せている。

◇子どもが小学校に入学して、宿題の多さに驚いている。確かに、家庭向けリーフレットは園

からもらったが、実際のところ親はあまり見ていない。できれば年長の間に、小学校の先生の生の声を聴きたかった。そうすれば保護者にもリーフレットの活用が進み、入学後のギャップも少なくて済んだのでは。

◇多くの事業があるが、大事なのはどれだけ効果があったかということ。あまり周知できていないという現実は、これから見直さなければならない大きな課題。

◇年長の子どもがいるが、家庭向けリーフレットが夏休み前に配布されたことで、小学校入学に向けた準備を意識するようになった。２月の入学説明会のタイミングでは準備期間がないので、もっと早い時期に小学校低学年の先生の話を聞くことができれば、入学に向けてより柔軟に対応できると思う。

◇家庭向けリーフレットの配布時期はとても重要。大事なのは評価。家庭や地域の教育力が向上したかどうかを評価するのは難しいが、せめて、配布したものがどれ位読まれているのか、読まない人は何故読まないのかを調べてみることも必要。教員のめやすは、今から取り入れようとしている段階なので、ぜひ導入前の状況と導入後の効果を確認したい。
⇒家庭向けリーフレットは、学級懇談等の機会を利用して配布してもらうのが効果的だと考えている。配布時期については、各園の要望を聞いて対応したい。

◇園の学級懇談の際に、小学校の先生に来てもらうことはできないか。
⇒小学校の先生は難しいと思うが、市から伺うことはできる。

◇スマートフォンの普及等、時代の変化が子ども達の発達にも影響を与えている。保育所や幼稚園でも、その時代に合った保育、教育が求められており、時代の変化を踏まえた保幼小連携のあり方を考えていく必要がある。

◇スマートフォンやパソコンは、障がいのある子どもにとっては、コミュニケーションを図るための支援機器としてプラスになる面がある。一方、順調な発達をしている子ども達が早期からスマートフォンやゲーム機等に没頭し、人とかかわる時間が減ることがとても危惧されている。
　人は人とかかわって成長することが大切。保育所や幼稚園では人とのかかわりが保障されている。ルールを決めてやらないと子ども達を守れない時代になってきており、家庭でも人とのかかわりを心がけてもらうことが必要。

◇今後は、このようなリーフレットを作るにしても、今の子ども達の問題に対応したものにする努力が必要。

◇宗像市の子ども達の発達（家庭向けリーフレットの項目について、実際にできているかどうか）を示すデータはないのか。発達支援センターに相談している子どもの割合や分類のデータ

はあると思うが。
⇒できているかどうかを示すデータは持っていない。発達支援センターは子どもの発達全般をみている。診断の有無や就学後の特別支援教育でのかかわりに限定すれば数値は絞りこまれるが、全体の相談やフォローの件数でみると、かかわっている子どもの割合はかなりの率になる。

◇就学前の子どもに関する個別の支援計画の作成数と、保幼小連携における接続の実情はどうなっているのか。
⇒一人ひとりの特性をみながら支援の中身を引き継いでいくのが基本的な姿勢だと思うが、保護者の同意があって成り立つもの。引き継ぎがなかなか進まないという課題を解消するため、県の方でも、幼少期から大人になるまでの支援をサポートするための「就学サポートノート」が提示されている。
　小学校では、教員同士で情報交換をして、市の個別の支援計画を活用しながら子どもの成長を見守っている。中学校への引き継ぎも、計画をそのまま引き継ぐことが難しくても、担任同志でやりとりしながら、うまくつなげるよう努力している。また、担任一人に任せるのではなく、校内委員会を開く等、学校全体で一人ひとりの育ちを見守っていこうという体制づくりにも取り組んでいる。

◇市の取り組みの中で、独自の年中（４歳児）健診は大変手厚いと感じている。
　発達支援センターによる年２回の巡回相談も、園の職員を集めて研修のような形で活かせるようにしている。

◇家庭向けリーフレットに「大人自ら手本を示しましょう。」とあるが、あいさつや話を聞くことを普段から大人がやっているのか。これだけをみると、子どもにはこんなことをさせなければいけないと勘違いする保護者もいるかもしれない。そうならないよう文章の中に一文入れると、より良いものになると思う。
⇒読む人がどれ位いるのかという問題はあるが、１１月１５日号のタウンプレスに「求められる親力」と題して、家庭教育の大事な部分についての記事を掲載している。

◇とても大事なことなので、リーフレットの内容を見直す際にぜひ取り入れてもらいたい。

◇タウンプレスの記事を家庭向けリーフレットと一緒に保護者に配布してはどうか。

◇あいさつや返事等、人と人とのかかわりをつくっていくことの心地よさを親が実感し、子どもにそれが伝わっていくことが理想。強制されるものになってしまうと本質の良さが伝わらない。価値が伝われば、もっと素晴らしいと思う。

６　その他
　次回開催日　平成２７年３月４日（水）に決定